

問 ④財政の改善について

ア) この12年間で稼いだ金額（ふるさと納税、企業版ふるさと納税、補助金、固定資産税等）の金額について伺いたい。

イ) 財政の健全度の変化及び今後の財政予測について伺いたい。

答 財政面では「稼ぐ自治体」を掲げ、ふるさと納税、企業版ふるさと納税、補助金の獲得、企業誘致による固定資産税増など、あらゆる財源確保策に取り組んできました。

ふるさと納税は、就任当初ほぼ実績がない状態から大きく伸び、累計で数百億円規模となり、町の財政を支える柱の一つとなっています。企業版ふるさと納税も累計約26億円規模に達し、教育や子育て、国際交流、防災など多様な施策の財源として活用されています。

補助金についても事業費の約半分をカバーする重要な財源となり、基金残高の積み増しや実質公債費比率の改善につながっています。

今後は、ふるさと納税を過度に見込まない保守的な財政計画のもと、持続可能な財政運営を行っていきます。（町長）

問 ⑤災害や非常事への対応について

ア) 関東東北豪雨で災害対応及び今日活かされている教訓について伺いたい。

イ) コロナ禍で実施した主な対策について伺いたい。

答 関東東北豪雨では、被害認定や制度適用の判断が復旧支援の可否を大きく左右しました。

町ではエリア指定による対応を行うことで災害救助法の適用につなげ、被災者支援や復旧財源の確保を実現しました。この経験から、初動対応の重要性や制度を正しく理解することが被害軽減に直結することを学び、現在の防災訓練や避難体制強化に活かしています。

コロナ禍では、マスクや消毒液の配布、PCR検査体制の整備、ワクチン接種を迅速に進めるとともに、企業版ふるさと納税を活用して必要物資を確保しました。

災害や感染症への対応は、平時の備えと知識の積み重ねが結果を左右するため、今後も体制強化に努めていきます。（町長）

期休業中の昼食提供についても、給食センターの活用など現場の実情に即した工夫を行い、保護者負担の軽減を図っています。

体育館へのエアコン設置は、防災指定を行うことで補助制度を最大限活用し、小中学校すべてへの整備を進めました。LED化についても、蛍光灯廃止を見据え計画的に更新を進めています。

英語教育では、英検3級保有率が大幅に向上し、境町モデルとして県内外へ横展開される取り組みとなっています。（町長）



問 ③公共交通の充実について

ア) 自動運転バス及び高速バスの誘致、デマンドバスの導入等の実績について伺いたい。

イ) スクールバスの充実について伺いたい。

答 自動運転バスは導入当初、安全性や実用性について評価が分かれていましたが、継続的な運行を通じて利用者の理解と信頼が深まり、累計利用者数も着実に増加しています。免許返納後の高齢者の外出機会確保や、町外からの視察・注目度向上など、導入効果は徐々に表れていると認識しています。

高速バスについては、東京駅方面を中心に月5,000人を超える利用があり、鉄道駅のない境町にとって欠かせない広域交通手段となっています。

AIデマンドバスは、自動運転バスが走らない地域を補完する役割として導入し、登録者・利用者ともに増加しています。

スクールバスについても、通学距離や安全面を考慮し運行基準を見直した結果、登下校時の利用率が高まり、保護者や児童の安心につながっています。（町長）

